

香港及澳門ノ割讓並ニ通商ニ關スル條約

目次

香港ノ割讓並ニ通商ニ關スル條約 八七

第一、香港島ノ割讓(南京條約) 八七

第二、九龍半島ノ割讓(天津條約) 八九

第三、香港清國間ノ通商條約關係 九二

(一) 南京條約追加約款(一、八四三年、道光二十三年) 九二

(二) 天津條約(一、八五八年、咸豐八年) 九三

(三) 天津條約追加約款(一、八六九年、同治八年) 九四

(四) 芝罘條約(一、八七六年、光緒二年) 九四

(五) 英清改訂通商條約(一、九〇二年、光緒廿八年) 九五

澳門ノ割讓並ニ通商ニ關スル條約 九七

第一、割讓ノ由來 九七

第二、割讓並ニ通商ニ關スル條約 九九

(一) 天津條約(一、八六二年、同治元年) 九九

(二) 「リスボン」議定書(一、八八七年、光緒十三年) 一〇〇

(三) 北京條約(一、八八七年、光緒十三年) 一〇一

附屬一、清國阿片稅徵收協助ニ關スル協商 一〇二

附屬二、清國阿片稅徵收協助ニ關スル協約 一〇三

香港ノ割讓並ニ通商ニ關スル條約

第一、香港島ノ割讓

十五世紀ノ頃印度及「アラビヤ」地方ヨリ鴉片輸入セラレ清國人一旦之ヲ吸ヒ初ムルヤ流行年ヲ逐フテ其度ヲ高メ貴賤貧富ノ別ナク舉ゲテ之ヲ嗜好セサルナキニ至レリ清國政府ニ於テハ大ニ其害毒ノ蔓延ヲ恐レ乾隆帝以來屢々之ヲ輸入ヲ禁止セシカ其後國禁漸ク弛ミ密輸入盛ニ行ハレ一、八二六年頃ニハ其輸入高非常ノ多額ニ上レリ時ニ山東人黃爵茲ナルモノ鴉片弊害ヲ極論シテ之ヲ嚴禁ヲ上奏セシカ朝廷之ヲ容レ直ニ禁令ヲ發シ翌年鴉片輸入ノ門戸タル兩廣ニ林則徐ヲ總督タラシメ之ヲ勵行ニ任シタリ林總督ノ任ニ赴クヤ鴉片ヲ輸入スル清商ヲ公然殺戮シ英商ヨリ鴉片ヲ奪取シ遂ニ領事以下宣教師醫師等ヲ捕ヘテ獄ニ投シ且ツ其糧食ヲ斷ツニ至レリ是ニ於テ乎所謂鴉片戰爭ナルモノヲ惹起シ終ニ清國ノ敗北ニ歸シ一、八四二年八月二十九日(道光二十二年七月二十四日)南京ニ於テ清國全權大臣耆英、伊里布等ト英國公使「ヘンリー・ポットナム」トノ間ニ所謂南京條約ヲ締結シ同條約第三條ニヨリ清國ハ香港島ヲ英國ニ割與シタリ同條文ニ曰ク

「英國商船遠路洋ヲ涉リ往々損壞アルヲ以テ之ヲ修繕シ且ツ其材料ヲ保存スルノ場所トシテ清國皇帝ハ香港島ヲ英國女皇及其後嗣者ニ給與シ同所ニ於テ任意法ヲ立テ治理セシム

(参照) 總稅務司出版條約集卷一、一六〇頁
特種條約彙纂九一頁
Directory of chronicle for China Japan etc.

第二、九龍半島ノ割讓

一、八五六年十月八日英國ノ國旗ヲ掲ケシ「アロー」號ト呼ヘル歐風ノ一小船厦門ヨリ貿易ノ爲メ廣東ニ來リテ其河口ニ碇泊セシニ清國官吏數名官名ヲ帶ヒ名ヲ一揆ノ黨派捕縛ニ托シテ其中ニ入込マントス船主英人等其英國船ナルヲ以テ清國官吏ノ不法ヲ咎メ乗船ヲ拒ミタレトモ聞カス遂ニ乗組員ノ中ヨリ十二名ノ清人ヲ海賊ト稱シテ拘引シ去リ猶看守トシテ三名ノ官吏ヲ船中ニ殘シ留マラシメタリ依テ同船ノ持主ハ之ヲ廣東駐在英國領事「パークス」ニ訴ヘ「パークス」ハ條約ノ明文ニ基キ右十二名ノ清人ノ返附ヲ廣東總兵府吏葉名琛ニ照會シタルニ葉ハ「アロー」號ハ英船ニ非スシテ支那船ナリト稱シ一切「パークス」ノ要求ニ應セス双方激論ノ末領事ハ遂ニ之ヲ香港總督ニ訴ヘ同總督ハ更ニ葉ト最後ノ談判ヲ試ミシモ前説ヲ固執シテ屈セス依テ總督ハ英艦隊ニ命シ廣東ヲ砲撃シ其附近ヲ侵略セシメタリ此報告本國ニ達スルヤ和戰ノ論頗ル沸騰シ時ノ首相「パーマースト」ハ堅ク開戰ヲ主張シ遂ニ議會ノ賛成ヲ得益強硬ノ態度ヲ以テ清國ニ當ラントセリ
偶々清國人佛國宣教師數名ヲ殺シ佛國ヨリ嚴談ヲ試ムルモ清國言ヲ左右ニ託シテ充分ノ回答ヲ與ヘス爲メニ清佛兩國ノ間亦一葛藤ヲ生シタリ英國ハ此機ニ乘シテ佛國ト力ヲ併セ再ヒ廣東ヲ攻撃シ忽チ之ヲ略取シ又葉ヲ捕獲セリ是ニ於テ英佛兩國ハ清廷ト善後策ヲ議定セント欲シ白河口ニ至リ書ヲ致シテ清廷ヲ詰問セシニ清廷事ヲ左右ニ託シテ徒ラニ回答ノ時日ヲ遷延セシカハ英佛軍大ニ怒リ兵ヲ進メテ兩岸ノ堡壘ヲ拔キ將ニ天津ニ迫ラントス清國ハ到底其抗

英佛同盟軍

天津條約

九十

スヘカラサルヲ悟リ和ヲ兩國ニ求メタリ兩國ハ之ヲ容レ各清國ト條約ヲ結ビ英國ハ一、八五八年六月二十七日(咸豐八年五月十六日)ヲ以テ所謂天津條約ヲ締結セリ
本條約ハ調印後一ケ年内ニ批准ヲ交換スル筈ナリシヲ以テ英國ハ新ニ公使ヲ任命シ佛國公使ト共ニ翌年五月本國ヲ發シ六月二十日白河口ニ到着シ批准交換ノ爲メ直ニ北京ニ赴カントセシニ清國側ニテハ大ニ白河ノ防備ヲ堅メ其上京ヲ阻害シ公使ノ一行ニ對シテ砲撃ヲ加フルニ至レリ依テ英佛兩國ニ於テハ朝野甚シク激昂シ愈々問罪ノ大軍ヲ出スコトニ決シ一、八六〇年五月兩國ノ全軍悉ク香港ニ着シタリ兩軍ハ先ツ舟山島ヲ陷レ進ンテ天津ヲ占領シ十月終ニ北京ニ入ル時ニ清帝ハ既ニ難ヲ熱河ニ避ケタリシカ露國公使「イグナナエフ」ノ調停ニヨリ同年十月二十四日(清曆九月十一日)ヲ以テ南京條約ノ補遺條款トシテ北京續約ヲ締結スルニ至レリ同續約第六條ニヨリ清國ハ香港ノ對岸ニアル九龍半島ノ一部ヲ英國ニ讓與スルニ至レリ其條文ニ曰ク

北京續約

「香港灣内及其附近ノ法律及秩序維持ノ爲メ清國皇帝ハ英國女皇及其後嗣者ニ對シ廣東及九龍地方ノ一部ニシテ曩ニ兩廣總督勞崇光ヨリ在廣東英佛同盟代辦委員「パークス」ニ永代借地權ヲ許與セシ部分ヲ付與シ英國香港殖民地ノ屬領トナスコトニ同意ス
本條約ニヨリ右借地契約ハ無効ニ歸ス又上記ノ九龍地方ニ於テ清國人カ正當ニ有スル土地ヲ英國側ニ於テ必要トシ收用スルトキハ相當ノ賠償ヲナスヘシ」

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、二四二頁

九龍ノ租

特種條約彙纂一二七頁

Directory Chronicle for China, Japan etc.

其後一、八九八年五月佛國カ廣州灣ヲ清國ヨリ租借スルヤ英國ハ最早從來占有セシ香港及九龍半島ノ一角ヲ以テ甘ンスルコト能ハス殊ニ九龍半島ノ北方ニハ峰巒高ク連リ香港ヲ眼下ニ見下スヲ得防備上大ニ危險ヲ感シタレハ駐清公使「マゴトナルド」ヲシテ李鴻章ト交渉セシメ一、八九八年六月九日(光緒二十四年五月十八日)ヲ以テ九龍地方ノ租借ニ關スル條約ヲ締結セシメタリ

(參照) 總稅務司出版條約集ノ一、三四七頁

特種條約彙纂一七五頁

Directory & Chronicle for China, Japan etc.

九十一

第三、香港清國間ノ通商關係

(一) 南京條約追加約款

一、八四二年(道光二十二年)ノ南京條約ニヨリ清國ハ香港島ヲ英國ニ割讓スルノ外廣州、福州、厦門、寧波及上海ヲ開放セシニヨリ右五港ニ於ケル通商章程ヲ制定スルノ必要アリ英國全權委員「サー、ヘンリー、ポツチンガー」ハ其翌一、八四二年十月八日(道光二十二年八月十五日)ヲ以テ虎門寨(the Bogue)ニ於テ清國全權委員「キーン」ト南京條約ノ追加約款十六ヶ條ヲ協定シ其内香港ト前記五港トノ間ニ於ケル通商關係ニ付規定スル所アリキ其要項ニ曰ク

第九條 清國不法ノ土民ニシテ其政府ニ對シ罪ヲ犯シ香港ニ逃入ルモノアラハ英國官憲ハ審問處罰ノ爲メ之ヲ清國官憲ニ引渡スヘシ

清國犯人
引渡

第十三條 五港ヨリ香港ヘ貨物ヲ輸送スルモノハ清國人タルト外國人タルトナ問ハス清國稅關ヘ納稅シ且ツ其使用スル船舶ニ對スル通行券即出港免狀ヲ受ケサルヘカラス

清國納稅
及通行券
(廢止)

第十四條 英國ハ香港ニ於テ右船舶ニ對スル稅關證書並ニ出港免狀ヲ檢査スル爲メ一官吏ヲ任命シ若シ之ヲ有セサル者アルトキハ同官吏ハ之ヲ密輸出入船トシテ清國官憲ニ報告スヘシ

香港英吏
ノ取調
(廢止)

第十五條 香港ニテ負債セシ清國人ニ對スル訴訟ハ同地英國民事裁判所ニテ之ヲ清理シ同清人若シ清國內地ニ財産ヲ有スルトキハ清國官憲ハ英國官憲ノ請求ニ應シ本人ヲシテ返済セシムヘシ之ト同様ニ五港ニテ負債セル英人香港ニ逃入スルトキハ英國官憲ハ清國官憲ノ請求

報告ノ交
換
(廢止)

求ニ應シ本人ヲ取調ヘ返済セシムヘシ

第十六條

五港ニ於ケル清國海關ハ月三回出港免狀ノ下付及積荷ニ關スル報告書ヲ作成シテ廣東海關ニ送り同海關ハ其寫ヲ香港英國官憲ニ轉送スヘシ又香港官憲ニテモ右同様ノ報告ヲ廣東海關ニ致シ同海關ハ之ヲ五港海關ヘ轉致スヘシ

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、一九八頁

特種條約彙纂一〇二頁

(二) 天津 條約

英佛同盟軍將ニ天津ニ迫ラントスルヤ清國ハ到底其抗スヘカラサルヲ知り和ヲ兩國ニ求メタリ依テ兩國ハ之ヲ容レ一、八五八年(咸豐八年)天津ニ於テ一條約ヲ締結セリ同條約ニヨリ前記南京條約追加約款及一般通商章程ヲ修正シ同條約中ニ網羅セリ今香港ニ關スル條款ヲ舉ク

第二十一條 前記南京條約追加約款第九條ト大同小異

第二十三條 同約款第十五條ト大同小異

第二十九條 英國商船ハ百五十噸以上毎噸四錢其以下ハ毎噸一錢ノ噸稅ヲ支拂フヘシ最モ他

ノ開港及香港ニ至ルモノハ船主ノ願ニヨリ特別免稅書ヲ下附シ出港後四ヶ月内ハ更ニ噸稅ヲ課セス

尙前記追加約款第十三、十四、十五條ニ規定セル香港貿易船ニ對スル通行券ノ下付、同地ニ於ケ

ル英國検査官ノ任命、其他月報交換ノ件ニ付テハ別ニ特別ノ條項ヲ設ケス思フニ右等ノ手續
今回全ク之ヲ廢止シタルモノナラン乎

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、二二八頁
特種條約彙纂二二〇頁

(三) 天津條約追加約款

天津條約第二十七條ニ依レハ、締盟國ノ一方ハ同條約締結後十ヶ年ノ末ニ於テ新定稅則並ニ同
條約中ノ通商條款ノ修正ヲ要求スルノ權利ヲ認メタリ依テ駐清英國公使「アルコック」ハ一、八
六九年十月二十三日(同治八年九月十九日)ヲ以テ北京ニ於テ清國總理各國事務恭親王等ト天
津條約ノ追加約款十六ヶ條ヲ調印セシニ英國政府ハ一、八七〇年七月ヲ以テ其批准ヲ拒絕セ
リ今參考ノ爲メ其香港ニ關スル條文ヲ記セハ

第十五條 香港ヨリ條約港ニ輸入スル清國土貨ニ對シテハ内地通過稅ノ抵代ヲ許サス

子口稅
(批准セ
ラレズ)
復進口半
稅

英商ガ條約港ヨリ香港ニ輸出セシ土貨ニシテ更ニ清國條約港ニ再輸入セラル、トキハ(香
港ヲ清國條約港ト同視シテ)復進口半稅ノ納付ヲ許ス

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、二八八頁

特種條約彙纂ニナシ

(四) 芝罘條約

英國雲南視察員殺害事件ノ善後策ニ關シ清國全權李鴻章ハ英國全權「ウエード」ト一、八七六

清英委員
會

年(光緒二年)芝罘ニ於テ本條約ヲ締結シ其第二章通商ニ關スル條文第七項ニ於テ香港貿易ニ
關シ規定スル所アリ曰ク

「香港總督ハ久シク廣東稅關ノ巡邏船カ其殖民地ノ「ジヤンク」貿易ニ對スル干涉ニ付苦情
ヲ唱ヘ居タルヲ以テ清國政府ハ英國領事一名、同地位ノ清國官吏一名、及香港政廳ノ官吏一
名ヨリ成ル委員會ヲ組織シ同殖民地ノ利益ヲ害セスシテ清國政府ノ歲入ヲ保護シ得ヘキ方
法ヲ設ケシムルコトニ同意ス」

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、三〇五頁

特種條約彙纂ニハナシ

次テ一、八八五年七月十八日(光緒十一年六月七日)倫敦ニ於テ英國全權(サリスベリ)及清
國全權「ナエン」トノ間ニ締結セラレタル芝罘條約追加條款第九項ニ於テ前記委員ヲ速ニ任命
スヘキ旨ヲ約セリ

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、三二一頁

特種條約彙纂ニハナシ

(五) 英清改訂通商條約

一、九〇一年九月七日(光緒二十七年七月二十五日)北京ニ於テ締結セラレタル義和團事件ニ
關スル最終議定書第十一條ニ於テ清國政府ハ外國政府カ有用ト認ムル通商及航海條約ノ修正
並ニ通商上ノ關係ヲ便利ナラシムル爲メ其他ノ通商事項ニ關シ商議スヘキコトヲ約セルカ故

税額

英國政府ハ「サー、ゼームス、ライル、マツカイ」ヲ特命全權委員トシ上海ニ於テ一、九〇二年九月五日(光緒二十八年八月四日)清國特派辦理商約大臣呂海寰及盛宣懷ト通商條約十六ヶ條ヲ協定セシム同條約中香港ニ關スル條項ヲ擧ケンニ

第三條 清國ハ「ジャンク」ニヨリ香港ヨリ廣東省條約港ニ輸入シ又ハ同條約港ヨリ香港ニ輸出スル貨物ニ對シテ課スヘキ關稅及釐金稅總額カ汽船ニヨリ輸出入スル同一貨物ニ對スル

一般海關稅額ヨリ下ラサルヘキコトヲ同意ス(意味少シク不明)

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、三五二頁

特種條約彙纂附錄 二八頁

澳門ノ割讓並ニ通商ニ關スル條約

第一、割讓ノ由來

葡萄牙ハ一、五五七年始メテ澳門(Ma-Kao 馬竅)ニ來住セシカ其後間モ無ク附近ノ諸島ヨリ海賊出沒シ大ニ其掠奪ニ苦メリ然レトモ當時清國官憲ニ於テモ微力ニシテ之ヲ制抑スルコト能ハス遂ニ彼等ノ爲メ廣東港ヲ封鎖ラル、ニ至レリ是ニ於テ乎葡國人ハ數隻ノ船舶ヲ武裝シ彼等ヲ驅逐シテ廣東ノ封鎖ヲ解キタリ其後澳門ハ次第ニ隆盛ニ赴キ十八世紀ニ至ツテハ商業益々繁昌ヲ極メ東印度會社及和蘭會社等ノ設立ヲ見ルニ至レリ

抑モ澳門カ葡國ノ所有ニ歸セシハ清帝ノ讓與ニ依ルモノナルヤ將又其占領ニ基クモノナルヤ未タ史家ノ說一致セサル所ナルカ一、八四八年澳門總督「フェレーラド、アマラル」カ借地料ノ支拂ヲ拒絶シ清國稅關ヲ追拂ヒ一切清國權力ノ行使ヲ排斥セン迄ハ年々五百兩宛ノ借地料ヲ清國ニ納付セシコト疑ヲ容レズ而シテ同總督ハ右暴舉ノ爲メ翌年八月二十二日ヲ以テ清國人ヨリ暗殺セラレ其首ハ廣東ニ持去ラル、不幸ニ陷レリ

其後一、八六二年ニ至リ澳門總督兼駐清公使ハ清國總理衙門大臣等ト天津ニ於テ葡清通商條約ヲ調印シ其中澳門ト清國トノ關係及通商事宜ヲ規定セシカ同條約ハ終ニ批准ニ至ラスニテ止ミ又次テ一、八八七年(光緒十三年)ニ至リ「リスボン」議定書ニヨリ葡國ハ愈々同地ニ對スル主權ヲ正式ニ清國ヨリ承認セラレ更ニ同年締結北京條約ニヨリ重テ之ヲ確認セラレタリ今左ニ右諸條約ノ梗概ヲ摘記ス

リスボン
議定書
北京條約

清葡通商
條約

第一、割讓並ニ通商ニ關スル條約

(二) 天津 條約

前文ニ曰ク「葡清兩國間ニ存在セシ數百年來ノ和好及貿易關係ヲ堅固タル基礎ノ上ニ置ク爲
シ次ノ條約五十四ヶ條ヲ締結セシム」

今其條約中澳門ニ關スル條文ヲ掲ケンニ

舊條約廢
棄
(不實施)

第二條 是迄葡王國ト清帝國トノ間並ニ澳門總督ト清國官憲トノ間ニ締結セラレタル諸條約
及口約ハ總テ之ヲ無効トシ本條約ヲ以テ之ニ代ユ

公使進京
(不實施)

第三條 澳門總督ハ緊要事件アラハ駐清公使ノ資格ニ於テ毎年一度北京ニ赴クコトヲ得

駐澳清國
官吏
(同前)

第九條 葡國王ハ澳門官員ニ諭令シ清國ノ利益ヲ損害スル各種ノ情弊ヲ除去スルコトニ努力
セシム

職權

清國皇帝ハ通商事務ヲ辦理シ本章程ノ恪守ヲ稽查スル爲メ一官員ヲ澳門ニ駐紮セシムルコ
トヲ得但シ此官員ハ滿人或ハ漢人ノ四五品官ニシテ同地駐在諸國領事ト同一ノ職權ヲ有シ
自國々旗下ニ公務ヲ執行スルヲ得

清國犯罪
人
(同前)

第十八條 清國犯罪人ニシテ澳門又ハ其港ニ碇泊スル葡國船舶中ニ潜往スルトキハ清國官憲
ノ照會ニヨリ葡國官憲ハ之ヲ訪查嚴拿シ實際犯罪セル場合ニハ之ヲ清國官憲ニ引渡スヘ
シ

噸稅免除

第二十九條 葡國商船ハ噸稅トシテ百五十噸以上ハ每噸四錢其以下每噸一錢ヲ納ムヘシ而シ

調印

テ同船主ノ願ニヨリ清國海關ハ納稅濟書ヲ交付シ以後四ヶ月間同稅ノ重徵ヲ免レシム
本條約ハ一、八六二年八月十三日(同治元年七月十八日)天津ニ於テ澳門總督兼駐清公使「イ
シドロ、フランシスコ、ギマレー」ト清國全權總理衙門大臣恒及辦理三口通商大臣崇トノ間
ニ調印セラレシモ遂ニ批准セラレサリキ

(參照) 總稅務司出版條約集卷二、九八七頁

(一) 「リスボン」議定書

前文ニ曰ク「葡清兩國皇帝ハ三世紀以上兩國間ニ存在セシ和好ノ關係ヲ規定スル爲メ次ノ前
行議定書四ヶ條ヲ協定セシム」
其要領ニ曰ク

和親通商
條約
占有統治
ノ承認
不割讓約
阿片稅徵
收協助

(一) 最惠國條款ヲ有スル和親通商條約ヲ北京ニ於テ締結調印スヘシ

(二) 清國ハ葡國カ他ノ葡領ト同様澳門及其附屬地ヲ永久占有シ及統治スルコトヲ承認ス

(三) 葡國ハ清國ノ同意ナクシテ澳門及其附屬地ヲ他國ニ讓與セサルコトヲ約ス

(四) 葡國ハ香港ニ於ケル英國ト同様澳門ニ於テ阿片稅徵收ニ關シ清國ヲ協助スヘキコト
ヲ約ス

(調印)

一、八八七年三月二十六日(光緒十三年三月二日)「リスボン」ニ於テ葡國外務大臣「ヘンリ
ック、ド、パロス、ゴメス」ト清國總稅務司書記官「ゼームス、ダンカン、カムベル」トノ間
ニ調印セララル

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ二、一〇〇九頁
(三) 北京條約

前文ニ曰ク「三百餘年ノ間兩國間ニ存在セシ友睦ノ關係ヲ益々密接ナラシムル爲メ一、八八七
年(光緒十二年)ノ「リスボン」議定書ニ基キ茲ニ和親通商條約五十四條ヲ訂立セシム」
今右條約中澳門ニ關スル條文ヲ摘記スレハ

第二條 清國ハ「リスボン」議定書第二條ニ規定スル澳門ノ永久占有及統治ヲ承認ス

其境界ニ關シテハ追テ兩國ヨリ派員會勘ノ上更ニ特別協約ヲ訂立スヘク其以前ニ於テハ一
切ノ事宜總テ現狀ニ照ラシ双方増減改變スルコトヲ得ス

(注意) 其後ノ葡清兩國ハ絶テ勸界ニ着手スル所ナカリシカ近頃辰丸事件ニ關聯シ新聞紙
上頻リニ澳門境界ノ必要ヲ唱フルモノアリ清國政府ニ於テモ雲南交涉使高而謙ヲシテ其任
ニ當ラシメ近日澳門葡國官憲ト交渉セシムル筈ナリ而シテ民間ノ輿論ニテハ澳門及其附屬
地ノ割讓ハ領土ノミヲ指シテ領海ニ及ハスト主張スルモノアリ

第三條 葡國ハ議定書第三條ニ規定セル不割讓約ヲ全然承認ス

第四條 葡國ハ澳門ヨリ清國港ニ輸出スル關稅ノ徵收ニ關シ香港ニ於ケル英國ト同様同期間
清國ヲ協助スルコトヲ約ス

協助ノ法ハ別ニ本條約ノ附屬トシテ協定スヘシ

第四十三條 清國開港ヨリ澳門ニ前往スル葡船ニ對シテハ其船主ノ願ニヨリ噸稅納濟書ヲ交

調印

付シ四ヶ月間ハ更ニ噸稅ヲ徵收スルコトナシ
 第四十五條 清國犯罪人ノ澳門ニ逃入スルトキハ兩廣總督ノ照會ニヨリ澳門總督ハ先例ニ照
 ラシ之ヲ查獲交出スヘシ
 一、八八七年十二月一日(光緒十三年十月十七日)北京ニ於テ清國總理外務部事務慶親王及
 同衙門大臣孫毓汶ト葡國公使「トーマス、ド、スーザ、ローザ」トノ間ニ調印セラレ翌年四月
 二十八日天津ニ於テ批准ヲ交換ス
 (參照) 總稅務司出版條約集卷二、一〇二〇頁

附屬一

清國阿片稅徵收協助ニ關スル協商
 其前文ニ曰ク「一、八八七年(光緒十三年)締結和親通商條約第四條ニ基キ其附屬トシテ澳門ヨ
 リ清國港ニ輸入スル清國阿片稅ノ徵收協助ニ關シ次ノ原則ヲ協定ス
 其要領ニ曰ク

律例頒行

- (一) 葡國ハ澳門ニ於ケル阿片貿易ニ對シ次ノ如キ律例ヲ頒行ス
- 一、一ヶエスト以下ノ少量ナル阿片ノ澳門輸入ヲ禁ス
- 二、澳門輸入ノ阿片ニ付テハ着荷後直ニ葡國官憲ニ報告スヘシ
- 三、澳門輸入阿片ハ葡國官憲ノ許可ナクシテ之ヲ積換ヘ陸揚シ又ハ一棧ヨリ他棧ニ轉

運シ及輸出スルヲ得ス

報告

- 四、阿片輸出入商ハ其輸出入額、販賣額、保存額、其他買主等ヲ記載スル帳簿ヲ備フヘシ
 - 五、澳門阿片製造人及免許小賣商ノ外ハ一ヶエスト以下ノ生阿片ヲ所持スルヲ得ス
 - 六、本律例ノ施行細則ハ香海ニ於ケルト同様ナルヘシ
 - (二) 葡國官憲ニ於テ澳門ヨリ清國港ヘ阿片輸出許可書ヲ下付シタルトキハ直ニ之ヲ拱北
 關稅務司ニ轉報スヘシ
 - (三) 本律例ハ隨時兩國ヨリ會議改訂スヘシ
- 本協商ハ前記北京條約ト同日同人ニヨリ訂立セラレ
 (參照) 總稅務司出版條約集卷ノ二、一〇三二頁

改訂
(調印)

附屬二

阿片稅徵收協助ニ關スル協約
 其前文ニ曰ク「澳門ヨリ清國港ニ轉入スル阿片稅ノ徵收協助ニ關スル原則ハ既ニ前記協商ニ
 ヨリ決定セラレタルヲ以テ此際同原則ニ基キ更ニ詳細ナル施行規則ヲ制定シ且ツ澳門ヘ往來
 スル清國ジャンクノ取扱ニ附スル次ノ四ヶ條ヲ協定ス」
 (一) 總稅務司ハ清國領内便宜ノ處ニ稅官吏ヲ派遣シ葡商ニ對シ阿片稅單ヲ賣捌カシム而
 シテ同稅關吏ハ同時ニ澳門ニ近キ清國稅關分處ヲ兼轄ス

阿片稅單
ノ販賣

税率

稅務ニ關
スル事情

「ジャン
ク」貿易

調印

百四

(二) 毎ピクル百十兩ヨリ多カラサル率ニテ税金ヲ拂ヒ右稅單ヲ帶有スル阿片ハ更ニ何等
ノ稅餉ヲ課セラレ・コトナク大小ノ包ニシテ任意清國内地ニテ賣捌クコトヲ得

(三) 澳門清商ヨリ稅關分所ニ對スル事情ハ所轄稅務司ニ於テ之ヲ調査清理シ又澳門督憲
ハ隨時員ヲ派シ隨同審辦セシムルコトヲ得若シ意見合ハサルトキハ北京ニ移牒ス

(四) 澳門及清國港間ヲ往來交易スル「ジャンク」並ニ其載荷ニ對スル稅餉ハ香港及清國港
間ノソレヲ越ユルコトヲ得ス又右「ジャンク」ニ對シテハ出港又ハ入港ノ際ニ納付スヘキ
稅釐ノ外別ニ何等課稅セス

凡ソ海關稅及釐金ヲ納メタル清國土貨ニシテ澳門ニ進ムノ後更ニ出口シテ清國港ニ往ク
モノニ對シテハ銷號費一欸ヲ納ムルノ外何等稅餉ヲ重徵セラレ・コトナシ(銷號費トハ
何ノ意ナルヤ少シク不明ナリ)

本協約ハ前顯北京條約ト同日同人ニヨリ訂立セラレ

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ二、一、〇三六頁